

JCA 競技規則 (2024. 10 版) 改正の解説

(公社) 日本カーリング協会 競技委員会・審判部

2024.10

以下の文章で、緑色の取り消し線で示された部分は改正版から削除されるもの、赤色の下線で示された部分は改正版に追加されるものを表す。

World Curling Federation(WCF)→World Curling への名称変更

World Curling Federation(WCF)が機構名称を World Curling に変更し、ロゴ等も変更が行なわれた。今年度のルールブック上でもそれに対応し、World Curling Federation、WCF、ならびに日本語訳の「世界カーリング連盟」の記載を”World Curling”に変更した(以降の改正ルールではこれらの変更には触れない)。

World Curling ルール Jul. 2024 での変更を受けた改正

<R2. ストーン>

- (i) …。ただし、ストーンがインプレーかどうか決定するとき、あるいはエンドの第2投、第3投、第4投、第5投の前にフリーガード~~ゾーン~~ルール・ノーティックルールが適用される位置にあるかどうかを決定するときはこの限りでない。

昨シーズンからノーティックルールが正式採用されたが、現行ルールには R2(i)にノーティックルール時の対応が記載されていなかった。JCA では試行ルールの段階で留意点として対応している。

<R3. チーム>

- (b) …。チームが審判長の許可なく試合中に故意に投球順やポジションを変えた場合は、それが補欠のプレーヤーを用いた時でなければ、不戦敗となる。

スキップ/バイススキップがトイレに行き、他の選手がデリバリーするまでにプレーエリアに戻ることができない、という状況を例外とする判断を審判長の裁量とする、という意図で WC ルール Oct.2020(JCA 2020.11 版)に追加されたが、この状況(スキップ/バイススキップ以外の選手がハウスに立つ)は R3(b)が意図する「ラインナップの変更」ではなく、R4(b)(iii)の「不当な位置」にあたる、とされた。下記 R4(b)(iii)の変更も参照のこと。

<R4. プレーヤーのポジション>

- (b)(iii) プレーヤーが審判長の許可なく不当な位置にいる場合、デリバリーされたストーンは取り除かれ、相手チームはそのストーンによって動かされた他のストーンを違反が行われる前の位置に戻す。

上記 R3(b)の変更を参照。

<R10. 静止しているストーンを動かした場合>

- (a) 静止しているストーンを動かしたが選手や選手の持つ用具によって動かされた、あるいは動かす状況を作った動く状況を受けたが、他の動いているストーンの結果に影響を及ぼさなかったであろうと思われる場合は、違反をされたチームがそのストーンを違反が行われる前の位置に戻す。

ストーンを動かす原因となるものが「選手・用具」と R9 と合わせる形に変更された。

- (c) 動いているストーンのコースに何らかの変化をもたらしたであろうと思われる静止していたストーンが、投球側のチーム選手や選手の持つ用具によって動かされた、あるいは動く状況を受けた場合、全てのストーンが静止するまで待つ。…

(a)と同様にストーンを動かす原因となるものが「選手・用具」と変更された。また「投球側のチーム」と書かれた部分が誤訳と判明し、それを削除した。

<R12. スコア>

- (a) …。試合の最終エンドで計算上勝てなくなった場合は、その時点で試合はを終了しなければならず、エンドの最後までプレーはされない。…

WC ルールでは、最終エンドで計算上勝てなくなった場合の試合の終了に関して、“should” から“must”に変わり、試合を終了させるというニュアンスが強くなった。

<R14. 車いすカーリング>

- (b) …。デリバリーをするプレーヤーの足は体のどの部分も、デリバリー中アイス表面に触れてはならない。…

デリバリーは、通常通り手で投げても良いし、車いすカーリング規定に適合したデリバリースティックを使用し投げても良い。…

デリバリー時に選手の体がアイスに接触しないよう規定された。またデリバリースティックの使用が多くなり、手・腕を使ったデリバリーに対する “conventional” という表現が World Curling ルールから外されたことに対応した。

<C1. 一般事項>

- (h) World Curling 主催の選手権大会では、優勝チームに金メダル、2位のチームに銀メダル、そして3位のチームに銅メダルを授与する。プレーヤー5人(ミックスダブルスは2人、ミックスは4人)とコーチがメダルを受け取り、表彰台に上がることができる。World Curling の大会技術代表からの事前の承認なくメダル授与式に参加しないチームのメンバーは実際のメダルを受け取るができない。…

JCA 主催の選手権大会における表彰順位・対象者については大会ごとに規定する。

World Curling(以降 WC)主催大会でのメダル授与に関する変更を記載した。また JCA 主催大会での表彰規定は WC の規定とは直接関連しないためその旨を記載した。

<C2. 参加チーム>

(f) World Curling が主催するジュニア対象の大会で競技するには、各大会の開催日前で直近の 6 月 30 日現在で 12 歳以上でなければならない。その他すべての主催大会((h)項に規定する世界シニアカーリング選手権を除く)で競技するには、各大会の開催日前で直近の 6 月 30 日現在で 16 歳以上でなければならない。

上記大会の出場権を争う JCA 主催の各大会およびその予選大会においては、出場資格に関わる年齢の下限については World Curling のルールに関わらず大会ごとに規定する。

(以降の項を繰り下げ)

WC 主催大会において参加選手の年齢の下限が設定された。なお JCA 主催大会では大会ごとに規定を行なう。

(g) 世界ジュニアカーリング選手権ならびに世界ジュニアミックスダブルスカーリング選手権、およびその予選大会で競技するには、各大会の開催日前で直近の 6 月 30 日現在で 21 歳未満でなければならない。

上記大会の出場権を争う JCA 主催の各大会およびその予選大会にも上記の年齢基準を適用する。

(h) 世界シニアカーリング選手権で競技するには、大会が開催される前年の 6 月 30 日現在で 50 歳以上でなければならない。

上記大会の出場権を争う日本シニアカーリング選手権およびその予選大会にも上記の年齢基準を適用する。

参加年齢の限定に関して、前述の(f)項と同様に WC 主催大会での年齢制限、そしてそれらの大会への出場権を争う JCA 主催大会での年齢制限を示す表記に修正した。両項とも対応する WC ルール、ならびに従前のルールの解釈に変更はない。また(g)項で世界ジュニアミックスダブルス選手権(新設)について触れられている。

(j) JCA 主催大会においてチーム関係者となるためには、選手権が開催される前年(選手権が 12 月までに開催される場合は同年)の 6 月 30 日現在で 16 歳 ~~未満であっては~~ 以上でなければならない。

年齢制限に関する表記を(f)-(h)項に合わせる形で修正した。ルールの解釈に変更はない。

(m) …。オリジナルメンバーで行くか、補欠を使うかを明示するため、試合前練習 試合開始時刻 の少なくとも 1545 分前に審判長にゲームラインナップカード(紙もしくは電子フォーム)を提出する。

チームラインナップ提出の基準となる時刻が、試合前練習の開始時から、オリンピックで使われている試合開始時に変更された。WC ルール上ではこれによる提出期限となる時刻の変更はない。現在 JCA 主催大会では試合前のデータ入力・試合記録票の作成に時間がかかるため、試合開始時刻の 90 分前を期限としているが、本件はルールの変更でなく大会ごとの事前通知での周知という形で対応している。

<C3. ユニフォーム・用具>

- (a) ...。衣服の色やデザインは前もって World Curling に登録し承認を得ておく。プレーエリアに入るとき、コーチ・チーム関係者はチームもしくは所属協会のユニフォームを着用する。~~明るい色のユニフォームは主に白または黄色で構成され、正面・背面ともに最低 70%は白または黄色でなければならない。暗い色のユニフォームは白・黄色を除いたどの色を使ってもよく、正面・背面ともに 70%は暗い色でなければならない。それ以外の色を使用する場合の承認は、大会の 8 週間前までに申請しなければならない。また複数の大会での使用についてはシーズンの最初に申請できる。~~

ユニフォームについての詳細や承認手続きについては、World Curling のユニフォーム規定を参照すること。尚、JCA が主催する競技大会においては、別途「JCA 競技者ユニフォーム規定」を適用する。

- ~~(b) シャツとジャケット・セーターの背中には 51mm(2 インチ)以上の大きさの文字で競技者の苗字を、そしてその下に所属協会名を 51mm(2 インチ)以上の文字で腰より高い位置に書く。都道府県の紋章をつけてもよいが、所属協会名とプレーヤーの苗字の間に配置する。同じ苗字のプレーヤーが複数人いる場合は、名前の頭文字をあわせて書き込む。~~

(以降の項を繰り上げ)

ユニフォームに関する規定がルールから削除された。ドレスコードについてもルールブックから削除され、いずれも”World Curling Uniform Policy”にまとめられた。
JCA ではドレスコードについては JCA 競技者ユニフォーム規定に統合した。

<C6. 計時>

- (q) 計時ミス(時計を止めなかった)によって時計が動いていたチームはミスによって動いた時間が時計に足し戻される。

時計を止めなかった場合の処置(従前ルールに記載がなくよく質問を受けた)が追加された。

<C7. チームタイムアウト・テクニカルタイムアウト>

- (c) チームタイムアウトの手順は以下の通りとする。...

- (iv) ...。 会場のレイアウトが許す場合、 チームタイムアウトを取っていないチームのコーチは、 会場のレイアウトが可能であれば、移動時間を除いた実際のタイムアウトの 60 秒間の時のみベンチからチームと話を してもよい ことが許可されるが、相手チームが試合に戻った際には すぐに話をやめなければならない。

チームタイムアウトを取っていないチームの、コーチとの会話の開始・終了のタイミングが規定された。

<C8. ストーンの割り当て・ラストストーンドロ>

(b) ...

ミックスダブルスでは両方のプレーヤーが、その他の競技では最低3名のプレーヤーがアイス上にいなければならない。そうでない場合、LSD は最大値が記録される。

車いすカーリングでは、LSD の際に同じ性別のプレーヤーが4名アイス上にいる場合、LSD は最大値が記録される。

...

車いすカーリングでは試合中に両方の性別の選手がアイス上にいることが求められるが、それをLSDの際にも適用するよう規定された。

<C9. 順位決めの手順>

(b) 予選のラウンドロビンが終了した時点で、以下の条件(並んだ順に)によって、各グループ内でのチームの順位決めをする。

...

大会が複数グループで行なわれる場合でも、各グループ内の順位決定方法は1グループの場合と同様である、ということを明確化した。従前とルール解釈に変更はない。

(c) チームが異なるグループで戦い、グループ内での順位を元にラウンドロビン後の試合への出場にかかる順位を決定予選終了後、最終順位やラウンドロビン後の試合で必要とする順位に全グループ間で統合された予選順位を使用する場合、順位は全てのグループの同位チームのDSCを比較して決定され、DSCが最もよいチームが最上位となる。

グループ間で統合された予選順位を使用する場合、決定された順位を予選以降の試合で使用するだけでなく、予選で敗退したチームの最終順位としても使われると明文化された。またWCルールの原文に沿うよう訳を変更した。

(e)(ii) 最終順位を決定するラウンドロビン後の試合が、両チームともに出場ができずに行なえない場合、両チームの順位はともに(その試合で得ることのできる)敗れた場合に獲得する)下位の順位となる。...

従前ルールでは両チームの合意で試合をせずに順位が獲得できる状況となり、それを変更した。